

日本における現在の空中花粉の地域性（重力法による調査）

岸川禮子(国立病院機構福岡病院) 児塔栄子(日本アレルギー協会九州支部)
西間三馨 (国立病院機構福岡病院、日本アレルギー協会九州支部)

目的) 植物の花粉がアレルギー疾患の原因になることは、欧米では 200 年以上の歴史を持って研究が続けられている。環境中の花粉が疾患を起こす事実はわが国では第二次大戦後に本格的な研究報告がまとめられはじめ、現在では誰もが花粉症を知っている。数十年間で急速に広がった花粉症の概念は大きくアレルギー疾患の増加と結びついている。なかでもスギ花粉症は社会的にも大きな問題となり、国を挙げての治療・予防対策がとられている。その中でアレルギー疾患の原因となる空中花粉を主体に調査してきたので紹介する。

方法) 全国各地の調査協力施設の屋上に花粉捕集器（ダラムの花粉捕集器）を設置した。スライドガラスにワセリンを薄く塗って日付を記載し、毎朝ほぼ一定の時間にそのスライドを捕集器に置いて 24 時間後に取替えて空中花粉を採取した。フクシンを含む染色液をスライドガラス上に 1 滴落としてカバーガラスをかけ、室温で花粉を染色する。光学顕微鏡下で空中花粉を鑑別・計数を行い、1 cm² 当りの花粉数に換算して表した。

結果) 福岡市では 2 月になるとまず、スギ花粉が飛散開始する。他の花粉はカバノキ科のハンノキ属がわずかに観測される。スギ花粉は毎年飛散量や飛散期間（開花期間）が著しく異なる。2 月下旬から 3 月上旬に飛散ピークを迎え、3 月下旬までには終了する。飛散は日本列島の南から北へまたは緯度の低いほうから高い方に推移する。これを花粉前線と呼んでいる。スギの後にヒノキが開花し、次いで 5 月頃までにヤマモモ科、ヤナギ科、イチョウ科・マツ科・コナラ属・ニレ科およびシイ・クリ属などの木本花粉が大量に飛散している。4 月に入ると草本のカモガヤ、スズメノテッポウ、スズメノカタビラなどのイネ科が見られはじめ、5 月をピークに 6 月まで飛散する。木本の花粉に比べると数は少なく、その他タデ科・アカザ科・キク科などの双子葉植物の草本花粉が観測される。7 月下旬から 8 月上旬のごく短期間花粉のシーズンオフが見られた後、秋になると秋咲きのイネ科（ススキ、エノコログサ、メヒシバなど）、キク科（ヨモギ・ブタクサ属）、アカザ科、ヒユ科、クワ科などの主に草本花粉が観測される。10 月になると秋咲きのスギ花粉が飛散することがあり、アキニレ、ヒマラヤスギが観測される。これらのなかでアレルギーを起こす花粉について予防・治療対策として地域性を示す花粉地図やカレンダーを作成した。さらに国外の状況について温暖化による変化や欧州へのヨモギ・ブタクサ属の侵出などを少し紹介する。